

令和2年度コミュニティソーシャルワーク事業 実績報告書

1. 総合的福祉相談

	R2年度	R1年度
個別相談支援（延べ件数）	10,451件	8,667件

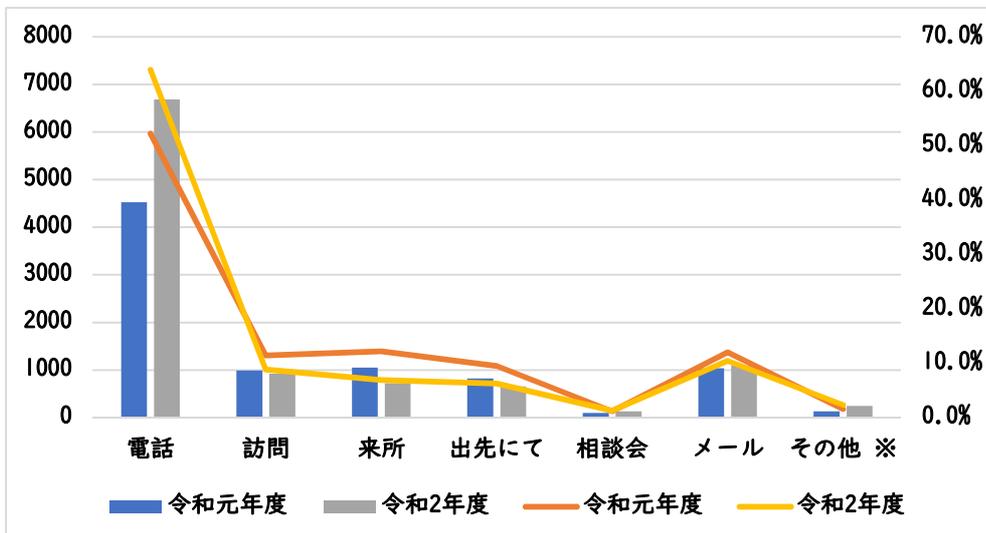
（1）個別相談支援

- ・相談件数は10,451件となり、前年度比122%となっている。コロナ禍において生じた区民の不安や困りごとに対して、感染対策を十分に行いながら、相談支援活動を実施した。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、区民ひろばへの来所数が減少し、電話での相談が多く寄せられた。閉じこもりがちになり精神的に不安定になった方から、頻繁に電話がかかってくることも多くあった。
- ・昨年に比べ20代、30代の相談件数が約2倍になっていること、相談内容として「健康・医療」に次いで「収入・生活費・債務」が増加していることから、新型コロナウイルス感染症の影響による生活様式の変化と失業、収入減少による経済的打撃が影響していると考えられる。
- ・地域団体からの相談や支援件数については、地域活動が休止、縮小となったため、減少している。

[相談方法]

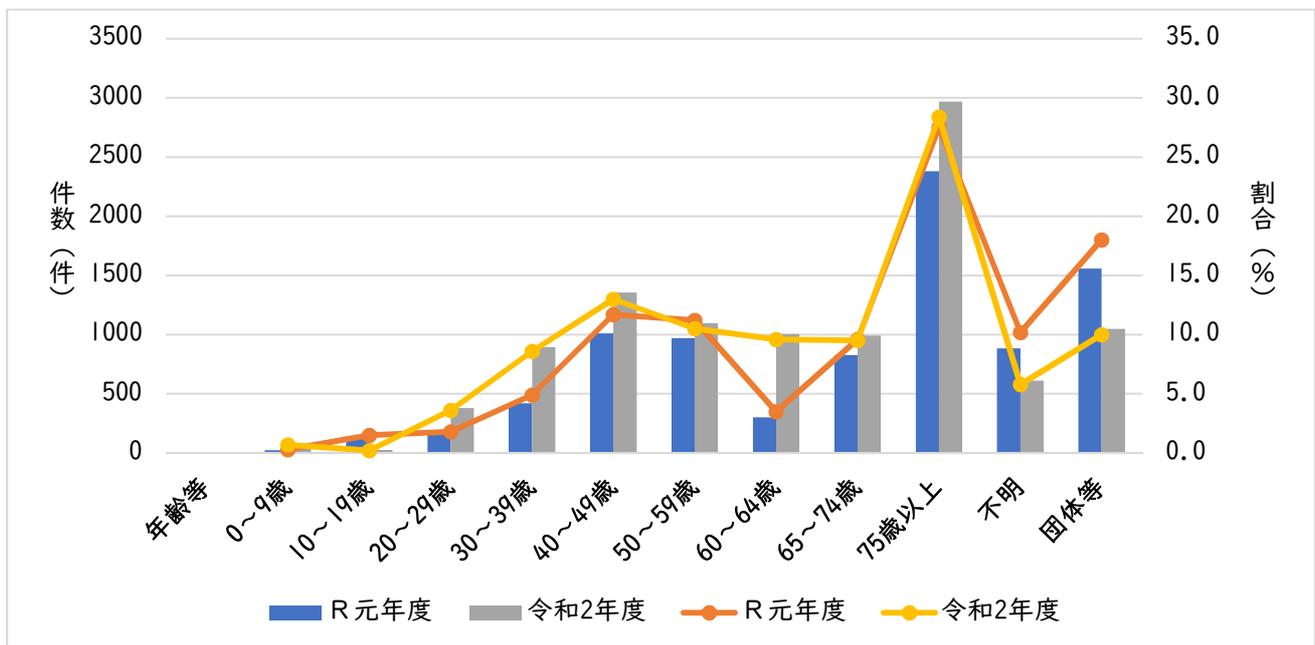
	R2年度 (延べ件数)	R1年度 (延べ件数)
電話	6,684件	4,527件
訪問	926件	992件
来所	724件	1,054件
出先にて	652件	821件
相談会	132件	99件
メール	1,088件	1,040件
その他※	245件	134件
合計	10,451件	8,667件

※「その他」（FAX、打合せ・会議等）



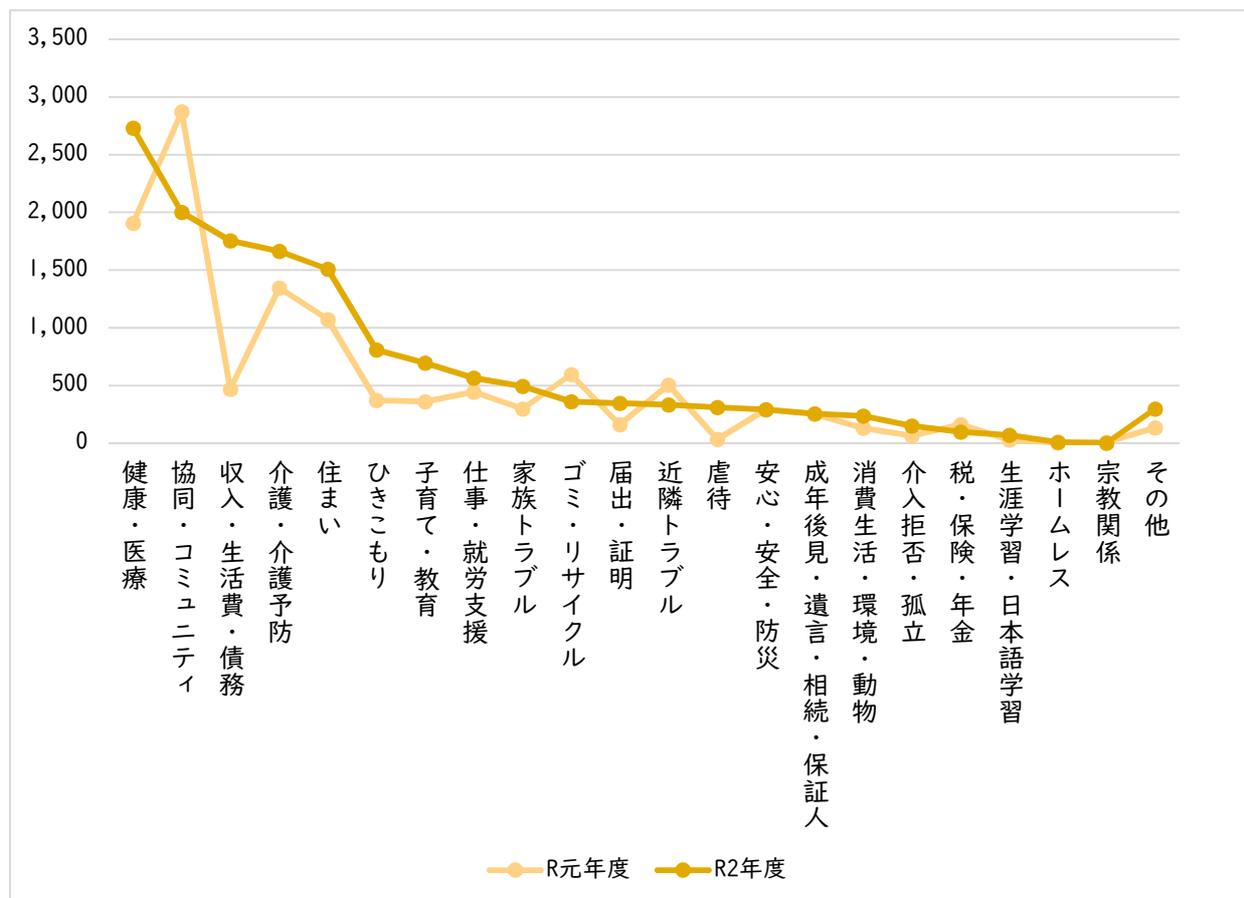
[対象者]

	R2年度 (延べ件数)	R1年度 (延べ件数)
0～9歳	75件	23件
10～19歳	25件	130件
20～29歳	380件	160件
30～39歳	895件	421件
40～49歳	1,355件	1,011件
50～59歳	1,098件	970件
60～64歳	1,006件	301件
65～74歳	991件	828件
75歳以上	2,968件	2,380件
年齢不明	611件	884件
団体等	1,047件	1,559件
合計	10,451件	8,667件



[相談内容] ※重複あり

内 容	件数	内 容	件数
健康・医療	2,731 件	近隣トラブル	332 件
協同・コミュニティ	2,002 件	虐待	310 件
収入・生活費・債務	1,756 件	安心・安全・防災	292 件
介護・介護予防	1,663 件	成年後見・遺言・相続・保証人	256 件
住まい	1,508 件	消費生活・環境・動物	237 件
ひきこもり	810 件	介入拒否・孤立	150 件
子育て・教育	694 件	税・保険・年金	98 件
仕事・就労支援	566 件	生涯学習・日本語学習	70 件
家族トラブル	494 件	ホームレス	9 件
ゴミ・リサイクル	361 件	宗教関係	0 件
届出・証明	348 件	その他	296 件
		合 計	14,983 件



(2) 相談会の開催

- ・区民ひろば 24 か所、その他介護予防センター、都営住宅の 2 か所において開催。4～5 月の相談会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため全て中止となった。
- ・開催回数は前年度に比べ減少したものの、相談者件数は増加している。
- ・様々な相談が寄せられる中でも、新型コロナウイルス感染症の影響による生活相談(地域からの孤立、家族トラブル等)が多くみられた。

	R2 年度		R1 年度	
	回数	相談者数	回数	相談者数
暮らしの何でも相談会	233 回	133 名	267 回	86 名

2. 地域支援活動（地域を元気にする活動）

新型コロナウイルス感染症の影響により、令和 2 年度の地域支援活動は開催中止や活動縮小となった。

(1) 要援護家庭等の子どもへの学習支援活動

【回数・参加者人数】

学習会名		ちゅうりっぷ	にじいろ	あおぞら	合計
開催回数（回）		0	0	6	6
参加者 延人数 （名）	子ども	0	0	58	58
	ボランティア等	0	0	47	47
小 計		0	0	105	105

【対象】

ちゅうりっぷ学習会（東部地域）、にじいろ学習会・あおぞら学習会（西部地域）

※にじいろ学習会は、新型コロナウイルス感染症の影響により開催中止。

※ちゅうりっぷ学習会は、コロナウイルス感染症終息後スムーズな学習会再開を目標に、8 月以降月 1 回「つばめ通信」を計 8 回発行。返信ハガキも同封し、ボランティアと子ども達の関係の継続に努めた。

【会場】

小学校(あおぞら学習会)

【連携・協力した機関等】

小学校、区民ひろば、民生児童委員協議会、地域住民、青少年育成委員会、大学、地域福祉サポーターなど



ちゅうりっぷ学習会
子ども達に向けた年賀状作成の様子

(2) 大正大学社会福祉学科サービスラーニング（体験教育）への協力

○テーマ サービスラーニングを通して、コミュニティソーシャルワークについて考える

目的	サービスラーニングを通して、コミュニティソーシャルワークについて考える
内容	大正大学1年生に対し、オンライン及び大正大学での対面にて下記項目について講演した。 <ul style="list-style-type: none"> ・CSW 事業に対する理解 ・区民ひろばの目的、機能の理解 ・担当圏域の歴史、社会資源に関する学習 ・地域探索の視点の確認
圏域	4 圏域(東部、いけよんの郷、アトリエ村、西部)
実績	回数：5回 参加者：87名
成果	今年は新型コロナウイルス感染症の影響により、地域での体験教育が叶わなかったため、オンラインを活用した内容となった。学生の理解を深めるために、地域紹介のための動画制作等、新たな試みを実施。学生達の様子や報告書から意欲的に取り組んでいたことが分かり、今後区内での地域活動への参加に向けた動機づけができた。

※サービスラーニングについて

1980 年からアメリカで始まった教育活動の一つであり「社会活動を通して市民性を育む学習」。地域への貢献を育み、地域の結びつきを強化するもの。

(3) 学びあい・支えあいの地域活動

地域住民や民生児童委員、町会・自治会、福祉関係団体等が、小地域でネットワークを構築して、地域課題の共有や、解決に向けた取り組みを行うなど、共に学びあい・支えあう活動を展開した。

①きんぎょサロン（中央圏域）

目的	年齢・性別・国籍などに関係なく、どなたでも参加できる地域の居場所として位置づける。参加者が、特技を生かし活躍できる社会参加の場・社会貢献の場として、生きがいつくりの一助を担う。
内容	①例年の活動 <ul style="list-style-type: none"> ・エプロンやポーチ等の制作、使用済み切手整理(豊島ボランティアセンターを通じて地域に還元)等の手仕事を通して、サロン参加者の地域交流、社会貢献を図る。 ・随時 CSW による相談支援を行うほかに、様々な関係機関と協力し、地域ニーズに対応した取り組みの創出を行う。 ②令和2年度の活動 <ul style="list-style-type: none"> ・リモートによるマスク制作

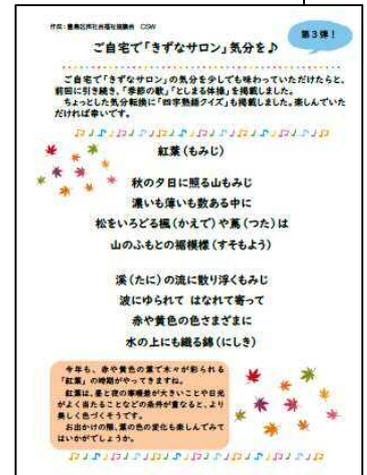
	<p>参加者有志でリモート作業にてマスクを制作。圏域内4カ所の子ども食堂、区民ひろばへ寄付、きんぎょサロンの周知を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雑巾制作 CSW の個別支援を通じて地域の方から寄付されたタオルを活用し、雑巾を制作。圏域内区民ひろば3カ所、ジャンプ東池袋、地域生活支援センター、特別養護老人ホームへ各15ずつ寄付を行った。 ・新たな取組みへの協力 制服を用意できない家庭への取組みに協力するために、昨年度の売上金から女兒の礼服を購入。寄付された布地からスカートとブローチを制作し、購入した礼服と一緒にワーカーズコープへ寄付を行った。 <p>(制作、寄付品贈呈の様子)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
<p>関係機関 連携</p>	<p>区民ひろば上池袋、NPO 法人豊島子ども WAKUWAKU ネットワーク、三寿会（高齢者クラブ）、高齢者総合相談センター、くらし・しごと相談支援センター、豊島ボランティアセンター、あいおいニッセイ同和損保</p>
<p>実績</p>	<p>日時：毎週水曜日 14時～16時 会場：区民ひろば上池袋 回数：39回 参加者数：328名</p>
<p>成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ひろば閉館に伴うサロン休止期間、CSW による参加者との電話や手紙を介した交流を行い、会の継続支援及び個別支援を行った（個別支援から地域貢献へ派生したケースあり）。 ・マスクの制作から販売、地域団体等への寄付に至る過程で、参加者への声掛け、備品・完成品の運搬、寄付先の調整支援を行った。 ・ワーカーズコープへ地域の状況・ニーズについて聞き取った中で、入学式で制服を用意できない外国籍家庭の生活課題について把握。課題を抱えた家庭への支援として、礼服レンタルの取組みを打診。ワーカーズコープに協力する形で、新たな地域支援の立ち上げ支援を行った。 ・「CSW 通信きんぎょサロン特集号」を町会・民生委員へ発行。活動の可視化を行い、サロン活動を広く周知した。

②歴史マップ委員会（豊島区医師会圏域）

目的	地域住民と学校、社協 CSW が共同し、地域の歴史に関して地域住民同士の学びあいの場を設け、世代間交流や顔の見える関係づくりを行う。併せて、子どもたちが自分の住んでいる街の歴史を知ることにより、地域への関心を持つ機会を創出する。
内容	①例年の活動 毎年1月に、池袋第三小学校3年生の地域授業科目にて開催。 区民ミーティングをきっかけに作成された「歴史マップ」を用いて、小学校周辺の今と昔を写真の比較で分かりやすく説明することで、児童に地域に関心を持ってもらう機会としている。 司会、講師は長年地域に住んでいる地域住民が担っている。 ②令和2年度の活動 歴史マップ講座の開催が中止となったため、R2年度の3年生に対し子ども達の地域に関心を持ってもらう機会として、小学校を介し歴史マップを配布した。
関係機関連携	池袋第三小学校、民生委員・児童委員、町会、地域福祉サポーター
実績	回数：1回 参加者数：0名 協力者数：5名
成果	会の継続支援、子ども達が地域の歴史に理解を深めるためのきっかけづくりに貢献した。

③池袋本町一丁目町会地域見守り検討会(いけよんの郷圏域)

目的	子どもから高齢者までの誰もが安心安全に暮らせる町会を目指す。全世帯を町会員と認識し、地域から孤立を防ぐ支援を「きずなサロン」を軸にじっくり継続的に行う。地域福祉活動を行っている関係者がお互いに横のつながりを持ち、連携・協働し、地域の実状に合った「支えあい」のしくみを作る。
内容	<p>①例年の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「見守り対象者名簿」と「見守りマップ」を作成し、半年に1回を目途に情報交換を行いながら名簿の更新を行う。 ・メンバーが担当地域を持ち、「きずなサロン」のチラシを配布する。ポストにただ投函するのではなく、直接手渡しすることを大切にしている。 ・地域課題について話し合う。 ・「きずなサロン」の運営について話し合う。 <p>②令和2年度の活動</p> <p>今年度はきずなサロンが開催中止となったため、班長が参加者宅を訪問し、サロンや介護予防に関するお知らせを届けることで、見守り活動を継続して行った。</p>



関係機関 連 携	高齢者福祉課、高齢者総合相談センター
実 績	日時：偶数月の第3土曜日 10時～12時 会場：池袋本町第2区民集会室 回数：3回 参加者数：49名
成 果	・地域見守り検討会の運営支援を行い、会の継続を支援した。 ・地域住民についてメンバーと情報共有を行い、地域ニーズの把握及び個別支援を行った。

④集合住宅における茶話会（アトリエ村圏域）

目 的	マンションに暮らす高齢者（特に一人暮らし）を中心に参加を呼び掛け、閉じこもりや孤立を防ぎ、住民同士の交流を通して居場所や仲間づくりの場とする。また、必要に応じてマンション住民以外の地域住民も受け入れることで、マンションと地域の住民間の交流を図る。区民ひろばを開催場所とすることで、地域に出るきっかけづくりとする。
内 容	参加者同士が交流を深め、折り紙や手芸、座ってできる体操など、介護予防や見守りを行うとともに、従来の集いの場では参加が難しい、配慮が必要な参加者も一緒に楽しめるプログラムづくりを行っている。 (茶話会の様子)  
関係機関 連 携	高齢者総合相談センター見守り支援事業担当、区民ひろば富士見台
実 績	日時：毎月第4木曜日 13時30分～14時30分 会場：区民ひろば富士見台 回数：9回 参加者数：33名 協力者数：21名
成 果	7月以降の実施となったが、不定期でアトリエ村包括の看護師から簡単な体操や情報提供の時間を設定し、参加者がより楽しめるような工夫を検討した。その結果、参加者から「月に一度のこの会を楽しみにしている」という声を受けた。また、包括とも密に連携しながら支援が行うことができ、地域の見守り機能を果たすことが出来た。

⑤地域貢献検討会議（小地域福祉活動ネットワーク会議）（西部圏域）

目的	概ね小学校区を基本とした小地域ネットワークを構築し、地域活動や課題の情報共有を行い、日々顔の見える関係を築くことを目的とする。
内容	<ul style="list-style-type: none"> 千川の杜（高齢者施設）を地域の拠点と捉えて、小地域におけるの地域活動や地域生活課題の情報共有を行う。 参加者の思いや地域生活課題を通じて具体的な提案が挙げた場合は、その都度、部会等を立ち上げて、企画検討していく。 <p>（会議の様子）</p> 
関係機関・連携	千川の杜、民生委員・児童委員、地域福祉サポーター、地域住民、高齢者総合相談センター、区民ひろば千早、在宅医療相談窓口
実績	回数：1回 参加者数：9名 ※オンラインで開催
成果	地域住民や関係機関と協働し、地域の活動や状況、課題を共有。参加者を通して住民の声を把握することができた。

（４）「学生出前定期便」への支援（菊かおる園圏域）

目的	（コロナ禍にて中止のため）学生出前定期便の再開時に、期待を持って利用できるよう、利用者の気持ちを繋ぎとめる。
内容	<ul style="list-style-type: none"> オンライン会議（4回） 開始用のお知らせ作成（コロナ禍により中止となる） 休止中のお知らせ作成 手紙の郵送（前年度利用者25名に対して）
関係機関・連携	大正大学 区民ひろば西巣鴨 区民ひろば清和 区民ひろば朝日 菊かおる園高齢者総合相談センター
実績	日時：3か月に1回 第4火曜日 10時～12時 会場：千川の杜地域交流スペース 回数：1回 参加者数：9名
成果	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍において、どのように感染症対策をすれば事業実施できるか模索した。 事業休止の決定後、再開時に期待を持ってもらうためにできることを考えた。 手紙送付により、受け取った方々から感謝の連絡を受けた。

(5) 豊島区生活支援体制整備事業との連携

①としまベンチプロジェクト@高田（ふくろうの杜圏域）

<p>目 的</p>	<p>地域にベンチを置くことで、高齢者等の引きこもりを防ぎ、交流が生まれ、誰もが外出しやすいまちになる。地域住民や関係機関、街のお店、企業、行政などが協働で取り組むことで、つながりのある地域づくりをすすめる。</p>
<p>内 容</p>	<p>①地域の特性を民生委員からヒアリング ②専門学校生と地域住民がまち歩きでまちを点検 ③地域住民、関係機関等でプロジェクトを運営 ④高齢者や親子などにベンチに関するアンケートを実施 ⑤ベンチの修理と設置</p> <p>(作業の様子)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
<p>関係機関 連携</p>	<p>地域のささえあいの仕組みづくり協議会、高田地区民生委員児童委員協議会、町会関係者（高田一丁目町会、高田中央町会、高田三丁目町会、東目白自治会、東目白坂下睦会）、日本福祉教育専門学校、ふくろうの杜高齢者総合相談センター、高田介護予防センター、池袋敬心苑、豊島区高齢者福祉課、生活支援コーディネーター（第1層）</p>
<p>実 績</p>	<p>日時：不定期 会場：区民ひろば高南(第一・第二)、日本福祉教育専門学校、町会会館、屋外等 回数：9回 参加者数：79名</p>
<p>成 果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日本福祉教育専門学校にあったベンチを修繕し、4台の「誰でも使える」ベンチを設置。 ・圏域内のスポーツクラブで廃棄することになっていたベンチ8台を譲り受け、区民ひろば高南第一、高田介護予防センターで「誰でも使えるベンチ」として1台ずつ活用して頂いた。

②地域資源（Ayamu）プロジェクトチームへの参画（全圏域）

目的	豊島区生活支援体制整備事業にて導入している地域資源データベースシステム「Ayamu」について、運用方法について関係機関で協議を行い、システムの利用を推進することにより、地域資源の有効活用を図ることを目的とする。
内容	①Ayamu の運用に関すること（登録する情報やカテゴリ、情報の使用承諾、ルール等） ②Ayamu の活用状況等の情報交換 ③情報の定期更新
関係機関連携	高齢者総合相談センター見守り支援事業担当、豊島区高齢者福祉課、生活支援コーディネーター（第1層）
実績	会場：豊島区役所内会議室 回数：2回
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・Ayamu 情報使用承諾書及び情報使用通知書を活動・サービス団体等から取得。 ・Ayamu 区内全域のつつじ苑の地図付き閲覧用資料作成。生活支援コーディネーターを通して、各高齢者総合相談センター、CSW 窓口へ配布。相談者に対し、情報提供を行えるようにした。 ・窓口に来所した地域住民のニーズに合わせ、Ayamu に登録している情報を提供した(7件)。 ・各圏域内の高齢者の ICT 活用事例について調査 計 21 団体の情報を提供した。

3. 「福祉なんでも相談窓口地区連絡会」の開催

目的	区内の 26 社会福祉法人の連携による「福祉なんでも相談窓口」事業において、窓口設置法人と 8 地区ごとに連絡会を実施。事業実施状況の確認の他、地域課題に関する情報交換などを行い、潜在的なニーズの掘り起こしや多職種・多機関のネットワークづくりを行った。
内容	「福祉何でも相談窓口」実施状況、コロナ禍での取り組みに関する情報交換 他
実績	回数：8回 参加者数：39名（内、社協職員 14名）
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍での各法人・窓口の近況報告・課題だけでなく、コロナ禍での工夫・アイデアについて情報共有することが出来た。 ・オンラインを活用した相談会や多世代交流の場作り、「福祉なんでも相談窓口」の今後の取り組みについて意見も挙がり、有意義な意見交換を行った。

4. コロナ禍における取組み

(1) 地域支援

①地域サロンオンライン交流会

<p>目的</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・活動者が、現在の活動状況や各サロン等が抱えている課題の共有を行うことで、担い手同士が横でつながり、コロナ禍での活動方法のヒントを得て、今後の活動に向けて考えるきっかけ作りを行う。 ・活動者を支援することで、地域住民の社会参加の場や社会的役割を發揮する機会やモチベーションを維持する。
<p>内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各団体の活動内容・近況報告 ・コロナ禍での活動の工夫、課題と感じていること ・今後の活動に向けて <p>(交流会の様子)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
<p>参加団体</p>	<p>いきいきクラブ i n 豊島、新大塚みんなの広場、サロンさんぼ道、サロン寿 高齢者総合相談センター、第1層生活支援コーディネーター</p>
<p>実績</p>	<p>参加者数：12名（内、CSW6名）</p>
<p>成果</p>	<p>サロンの分野（高齢者、子ども）は異なるが、サロン活動を行う悩みは共通しており、コロナ禍だからこそできることを考えるという点で、互いに質問し合い、悩みを共有する場面があった。また、これから始まる新たな活動に対し、「是非紹介してほしい。見に行きます」という積極的な発言もあり、オンラインでの実施となったが、サロン活動者同士の横のつながりづくりのきっかけになった。</p>

②食糧支援プロジェクトへの協力・相談支援

◆としまランチサポートプロジェクト

内 容	新型コロナウイルス感染症の拡大によって経済的影響を受けている家庭に対し「子ども達にお弁当を届けたい」という区内飲食店からの要望を豊島区民社会福祉協議会が受けたことをきっかけに、豊島こども WAKUWAKU ネットワークと連携し実現に向けた検討を行った。その結果、その他飲食店、企業、障害者支援施設等と協力し、お弁当や食料品等を提供する食糧支援事業「としまランチサポート」を協賛。
主 催	豊島子ども WAKUWAKU ネットワーク
開催場所	池袋御嶽神社、池袋ほんちょうの郷、風かおる里、真性寺、高三会館、としまセンタースクエア、目白聖公会、金剛院、区民ひろば 22 ヶ所
CSW の 関わり	運営に向けた関係機関との連携調整、提供作業時の人的協力
実 績	回数：31 回（5 月 13 回、6 月 18 回） CSW 延べ参加人数：40 名
成 果	対象者層（課題）の把握、プロジェクト協力者とネットワークの構築を図った。

◆ライス！ナイス！プロジェクト

内 容	「『コロナに負けるな！』としま医療・福祉支援寄付金」を活用した、官民連携協働によるひとり親家庭に対する食料支援事業に協力。
主 催	豊島区、豊島子ども WAKUWAKU ネットワーク
開催場所	第 1 回区民ひろば 22 ヶ所等、第 2 回区民ひろば 23 ヶ所等
CSW の 関わり	企業からの寄付物品の仲介、提供作業時の人的協力
回 数	回数：4 回 CSW 延べ参加人数：24 名
成 果	対象者層（課題）の把握、プロジェクト協力者とネットワークの構築を図った。

◆としまフードサポートプロジェクト

内 容	新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う学校等の臨時休業、事業所の休業等により経済的影響を受けている就学援助受給世帯(区内在住者)の負担軽減の一助となることを目的とした食糧支援事業「としまフードサポート」に協賛。
主 催	TOSHIMA TABLE
開催場所	豊島区役所本庁舎、豊島区清掃事務所、宗教施設 4 ヲ所（金剛院、真性寺、御嶽神社、目白聖公会）、2 ヲ所介護施設（風かおる里、池袋ほんちょうの郷）、高松三丁目会館、区民ひろば 9 ヲ所
CSW の関わり	運営に伴う物資の運搬、提供作業時の人的協力、支援制度の資料作成及び配布、相談対応
回 数	4 回 CSW 延べ参加人数 13 名
成 果	プロジェクト協力者とネットワークの構築を図るとともに、相談対応を行った（収入減少による生活相談など計 5 件）。



(2) 発行物

①CSW 通信ステイホーム特集号

新型コロナウイルス感染症の影響で外出自粛の要請が出るなかでも、互いにつながり支え合う地域の取り組みを行っている団体や、休業や失業で生活にお困りの方が利用できる制度について紹介する広報誌を作成し、協力機関へ周知を依頼した。



【発行時期】5月～7月

【協力機関】120カ所

(民生委員児童委員協議会、区民ひろば、保育園、病院、不動産会社、支援団体等)

【成果】

配布先となった不動産会社や休業・失業等、経済的に困難な状況に陥った方々から、数多くの相談が寄せられた。

②妊娠・子育てメール相談

新型コロナウイルスの感染拡大の影響により対面での相談が難しくなったことから、妊娠中・子育て中の方が安心して相談できるようにするためのメール相談について紹介する広報紙を作成。日頃、CSWにつながっていない層をターゲットに、協力機関へ周知を依頼した。

【発行時期】5月～7月

【協力機関】97カ所

(民生委員・児童委員協議会、区民ひろば、保育園、不動産会社、病院、支援団体等)

【成果】

協力団体からの反応は良好で、チラシの設置や対象者への配布の他に、SNSへの掲載、LINEグループでの共有など、様々な形で協力をして頂いた。

今回の企画をきっかけに、CSWの活動周知だけでなく、様々な機関と新たな協力関係を築くことができた。



③生活にお困りの方へ支援制度一覧

新型コロナウイルス感染症の影響により、生活に困っている世帯に制度を伝えることを目的として、保険料の減額や免除申請・給付制度・貸し付け制度などの支援制度について、外国籍にもわかりやすい「やさしい日本語」で記載し、必要とする対象者及び協力者へ説明、配布した。

【発行時期】

3月14日ミャンマーにルーツがある家族の交流会（イケサンパーク）

3月20,21日としまフードサポートプロジェクト

3月21日ネパールにルーツのある家族の交流会(池袋第二区民集会室)

【協力団体】IKEBUKURO TABLE、ボランティア参加者

【成果】

一覧の存在を知った休業・失業等、経済的に困難な状況に陥った対象者や協力者から、数多くの相談が入り、個別ニーズに応じて支援を行った。



5. CSW スーパービジョン体制の充実

コミュニティソーシャルワーク実践の質の向上を図るために、職員間で実践上の課題共有や、解決策の検討などを行った。

CSW 会議 : 10 回

事例検討会議 : 9 回